



感染症とたたかう

発行：国立大学法人 長崎大学 監修：長崎大学病院 感染制御教育センター長・教授 泉川 公一
お問い合わせ：長崎大学熱帯医学研究所 〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4 TEL：095-819-7800（代表） FAX：095-819-7805

発刊に当たって

長崎大学では、感染症についての情報を定期的にお伝えする『感染症とたたかう——長崎大学感染症ニュース』を発行することにいたしました。

感染症は、ウイルスや細菌などの病原体が体内に入り、いろいろな症状を起こす病気のことです。そして私たちは生活していくなかで、さまざまな感染症にかかっています。インフルエンザや風疹、麻疹（はしか）、ノロウイルス性胃腸炎などのウイルスによる感染症、大腸菌やサルモネラ菌、結核菌など細菌による感染症など、感染症は私たちの身近にある病気です。

『感染症とたたかう』では、こうした身近な感染症のリスクを最小限に食い止めて元気に毎日を過ごすために、「私たちの暮らしと感染症」というコラムで、日常生活での衛生管理のポイントなどについて分かりやすく解説します。また、エボラウイルス病やデング熱など、感染症の最新情報も「新

興・再興感染症」というコラムでお届けします。

長崎大学の感染症への取り組み

長崎大学は、1857年の創基以来、感染症とたたかってきました。海外の最新医学が伝えられた長崎には多くの優秀な医学者が日本中から集まり、コレラの制圧や種痘による天然痘の克服などに努めました。島しょ部の多い長崎には、さまざまな風土病もありました。これらの感染症も先人たちの努力で姿を消していきました。1942年に開設した長崎医科大学附属東亜風土病研究所は、1967年に熱帯医学研究所となり、熱帯病の研究も進めてきました。現在は、ケニアやベトナムにも拠点を設け、現地での研究にも力を入れています。

一方、長崎大学病院では、熱研内科、呼吸器内科（第二内科）、小児科、感染制御教育センター、検査部など、多くの診療科や部署の感染症の専門医が、診療や検査などに取り組んでいます。

長崎県は、人口に対する感染症の専門医の数の比率が全国でトップですが、これは長崎大学が感染症を得意としてきたからにほかなりません。たとえば、第二内科で感染症を学び、その後、全国各地の大学病院で感染症領域の教授に就任した人材は30人を超えています。感染制御教育センターでは、院内感染対策に積極的に取り組むだけでなく、地域全体の感染症情報を集め、感染症の



2017年に創立160周年を迎える長崎大学医学部

まん延や耐性菌の抑圧への対策を立てています。

世界に目を転じると、今でもさまざまな感染症が猛威をふるっています。毎年数十万人もの死者を出すマラリアや、昨年、日本でも69年ぶりに国内感染者が出たデング熱、2014年から15年にかけて世界全体で1万人を超す死者を出したエボラウイルス病などの脅威が続いています。

長崎大学では、医学部、病院、熱帯医学研究所などそれぞれの組織に所属する医師や研究者が、こうした感染症とたたかい続けています。

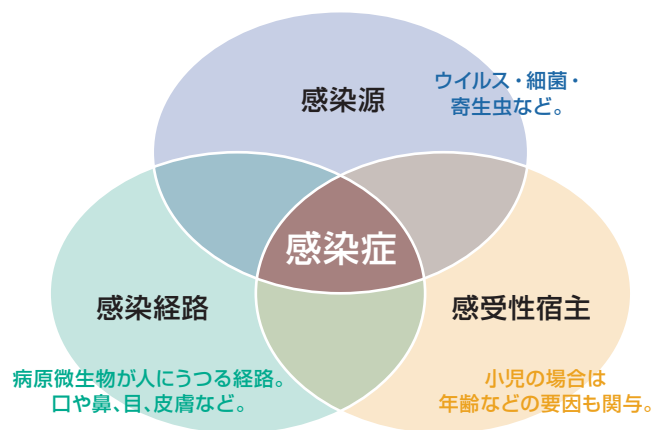
『感染症とたたかう』は毎月1回発行し、市民の皆さまが毎日を元気に暮らしていくために役に立つ情報を分かりやすく提供するとともに、長崎大学の感染症への取り組みも紹介していきます。

私たちの暮らしと感染症



『感染症とたたかう』の中のこのコラムでは、私たちがかかる可能性の高い感染症を取り上げ、私たちができる予防や対策について解説します。年間数千万人が感染するインフルエンザ、数百万人が感染するノロウイルスなど、身近な感染症の原因、症状、対応、予防などを最新の研究成果なども踏まえて分かりやすくお伝えします。創刊準備号では、感染症とは何か、という基本の「キ」をお話しします。

図 感染症成立の3大要因



感染症とは何か

感染症とは、ウイルスや細菌などの病原体が体内に侵入して増殖し、発熱や下痢、咳などのさまざまな症状が出ることをいいます。感染症には、人から人にうつる伝染性の感染症のほかに、破傷風やツツガムシ病などのように、動物や昆虫、

あるいは傷口から感染する非伝染性の感染症も含まれています。感染してもほとんど症状が出ずに終わるものもあれば、一度症状が出るとなかなか治りにくく、ときには死に至るような感染症もあります。

感染症が成立する（発症する）ためには、3つの要因が必要です（図）。それは、「感染源」「感染経路」「感受性宿主」です。この3つの要因のうち、どれか1つでも防ぐことができれば、感染症を発症することはありません。

このコラムでは、感染症の3つの要因を踏まえながら、身近な感染症にかかるリスクをどう減らせればよいかなどについて、解説していきます。

創刊号からの掲載予定

- 2015年12月号（創刊号）：インフルエンザ
- 2016年1月号：ノロウイルス性胃腸炎
- 2016年2月号：RSウイルス感染症
- 2016年3月号：高齢者の肺炎
- 2016年4月号：風疹、麻疹（はしか）